

社会全体の意識改革のために

～ 子ども育成指針創設の提唱 ～

日本保育協会青年部

「国の宝、社会の宝」といわれる子どもであるが、昨今の世相や子どもにまつわる事件・事故を見る限り、社会全体から本当に宝のように扱われているかどうかは甚だ疑問である。政府は平成18年6月20日に新しい少子化対策についての方針を示した。その中で、新たな少子化対策の視点として「社会全体の意識改革」の必要性を説いている。一方、平成19年12月25日に公表された規制改革会議の第2次答申には、経済効率優先の提言がなされ、本来最優先に考えるべき子どもの育ちや家族の絆、地域社会の温もりについては言及されていない。世界でも例を見ない少子高齢化社会の我が国に必要なものは、経済効率優先の施策よりも、子どもの育ちにとって望ましい社会環境の整備が急務である。そして、そのためには、国民全体が子どもの健やかな育ちについて共通認識を持つことのできる理念の構築・浸透と、財政措置を伴った的確且つ迅速な行動が必要であると考えらる。

1. 我が国の子育て理念について

子どもを愛し、慈しみ、守り育てることは、親や社会の責任であることは言うまでもない。しかし、あくまでも子育ての第一責任者は親であり、親の育ってきた環境や地域性の違いにより、子ども感・子育て感は一それぞれ千差万別である。どんな親であっても、子どもの最善の利益を保障することは当然のことである。しかし、昨今の乳幼児虐待問題にもみられるように、一部では実の親子関係、愛情の絆で結ばれるはずの親子関係ですら崩壊している。更には、親の子育て責任を尊重するが故に、社会の責任は二の次になっている感があることは否めない。

人間の本能や伝承において人が生命を育む子育ては、大切なことであると理解されているはずである。更に我が国には、児童福祉法や児童憲章、国際条約として批准している子どもの権利条約等、子育てについて明文化されたいくつかの理念が存在する。

2. 子育てについての共通認識

社会全体を巻き込んで行う望ましい子育て社会の構築には、「少子化社会対策大綱」でも述べられている、家族の絆や地域の絆を強化することが必要である。そのためには社会全体が子育てについて共通認識を持てる理念が必要なのである。前掲したいく

つかの理念を統合した日本固有の子育て理念を構築し、「国の宝、社会の宝」といわれる子どもたちに対し、親の責任と同等の子育て責任を社会全体で負うべきである。

尚、子どもの権利条約では、子どもを「保護の対象」としてではなく、「権利の主体」としている。よって、大人や社会には子どもを育成する「義務」があり、子どもには育つ「権利」があることを認識しなければならない。

3．子ども育成指針創設の提唱

前掲のとおり、我が国には児童福祉法や児童憲章、国際条約として批准している子どもの権利条約が存在する。しかし、そのいずれの理念も広く国民に浸透し徹底されていないのが現状である。これらの理念を継承するとともに、現代の子育て事情に合わせた「子ども育成指針」の創設を提唱したい。（別紙参照）

「子ども育成指針」の詳細については、現在改定目前となった「保育所保育指針」を一般家庭用にアレンジし、その中に親や家族の関わりや責任、社会の関わりや責任について明記するとともに、自助・共助・公助のあり方についても言及すべきである。

4．的確且つ迅速な行動のために

行動なき理念は「絵に描いた餅」である。理念の実現のためには掛かる費用も捻出しなければならない。そのためにも国民の合意、社会全体の意識改革が必要なのである。政府が示した「新しい少子化対策について」にもあるように、少子化対策を国民的な運動として意識高揚させるとともに、子ども育成指針の理念・内容をよりどころとし、的確且つ迅速な行動を社会の責任として行わなければならない。

子育ては生命の伝承である。人間が生きていくうえで必要な知恵、人や地域社会が持っている温かさを次代に伝承していくことこそが、私たち大人の使命であり、社会全体で子どもを守り育てることができる環境（＝コミュニティ）が、今こそ本当に必要な時代になっている。